

人生百年健康プロジェクト構想（案）

構 想 者：医療法人原土井病院 理事長 原寛（九州大学CEOクラブ会員）

ライフワーク：100歳まで健康に生き続けることに関する研究

参画する研究者等：九州大学の研究者及びその他研究及び医療機関研究者等

出 資 者：クラウドファンディング？

健康のまま長生きしたい人たちによる会員制？

【取組内容】

取り組み 1) 健康長寿を科学し、研究から得た知見を基に様々な手法により100歳まで健康で長生きできる人生を実現する。九州大学等の各分野の研究者が協働し「病気をせず」「健康を増進し」「老化を遅らせる」を目指す。

取り組み 2) 病院と研究機関の機能を併せ持つ施設の建設

用地：九州大学内（演習林等）、その他民有地も想定

【進め方】

ステップ 1) 構想実現に向けて、主体的に活動する組織及びメンバーの人選

ステップ 2) 構想者のヒアリングを行いメンバーによる構想調書（企画・計画案）の作成

ステップ 3) コンサルの選定

ステップ 4) 構想調書に基づき各分野の専門家による事業計画作成

[許認可]

・ 関係官庁

[必要な資金の見積]

・ 建設費、人件費、諸雑費

[資金（出資者）集めの方法]

・ VC、クラウドファンディング、他

・ 会員制

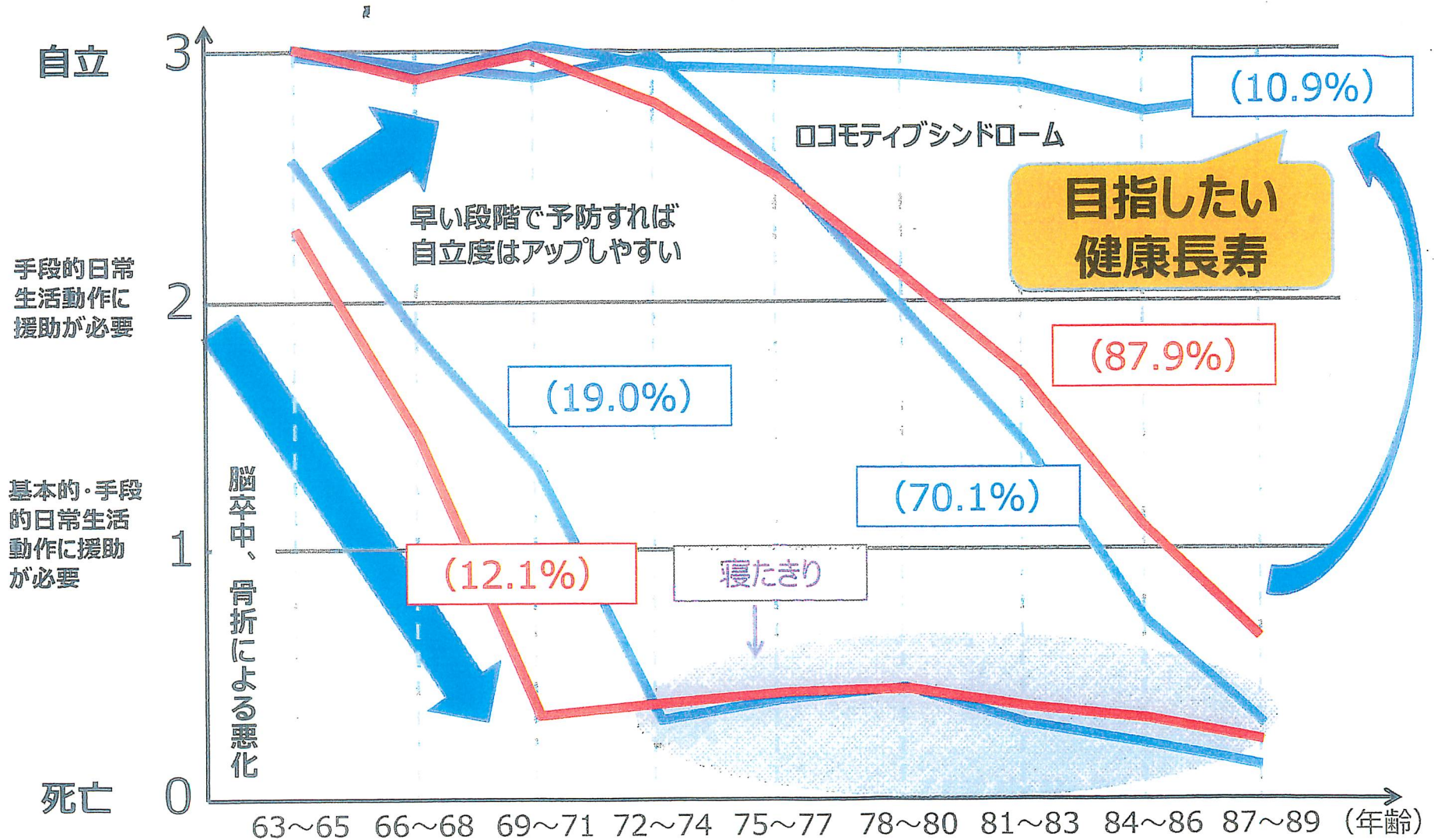
キーワードは長寿、健康、経済

今後の長寿社会を健康で元気であるために、このことは様々な統計データが示す通りであり、間違いなく訪れる将来の姿です。今のように年齢と共に自立度が落ち行く状態を変えること、つまり、年齢を重ねても自立した生活を営み元気であり続けるか、それとも生活習慣病による寝たきりの生活を余儀なくされるかは、セルフケアに対する実行の過程（個人を包む環境を含め大きな差異があります）を正しく導くことで、改善することができます。

高齢者＝長寿な方々が、罹病せず健康であり続け、働き続けるなど社会との関りを継続することができれば、社会保障費の大幅な縮小が実現できますし、少子化による労働力不足の解消にも寄与することになります。

このように、このプロジェクトの目指す方向の通り、高齢者が元気であり続け、意欲をもって社会参加することを支える仕組みを作ること、将来世代への負担を軽減しかつ、もって国力の維持・活性にも良い影響をもたらすものと言えるのではないのでしょうか。また、結果としての良い影響は、社会保障費の低減を目指す国、県、市が享受することができるほか、とりわけ福岡県・市にとっては、このことで医療、介護、福祉の雇用を創設できかつ、市外からの来訪者の増加による経済の活性化も見込めるものと考えます。

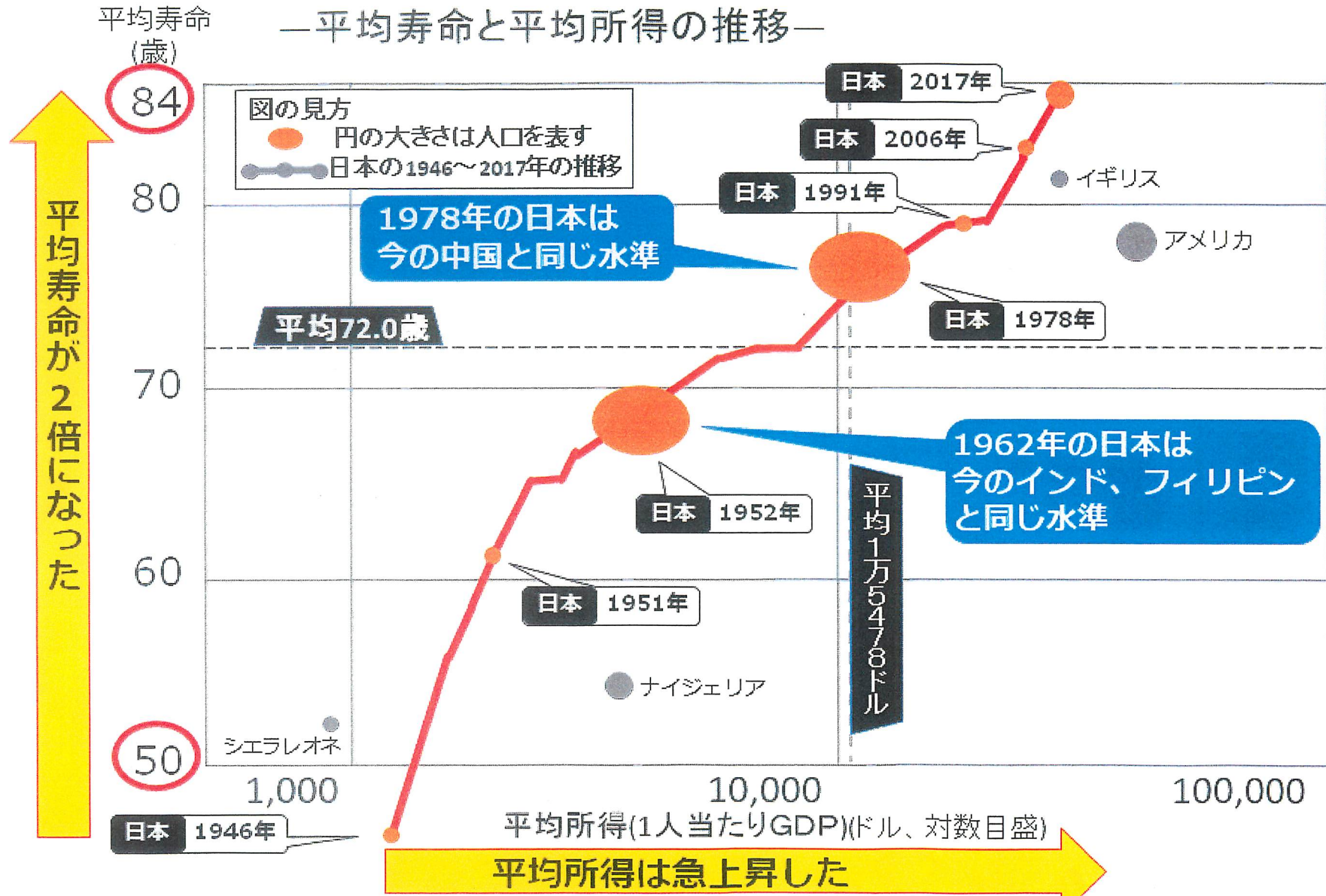
自立度の変化パターン ～全国高齢者20年追跡調査より～



秋山弘子「長寿社会の科学と社会の構想」『科学』岩波書店 2010 一部改変

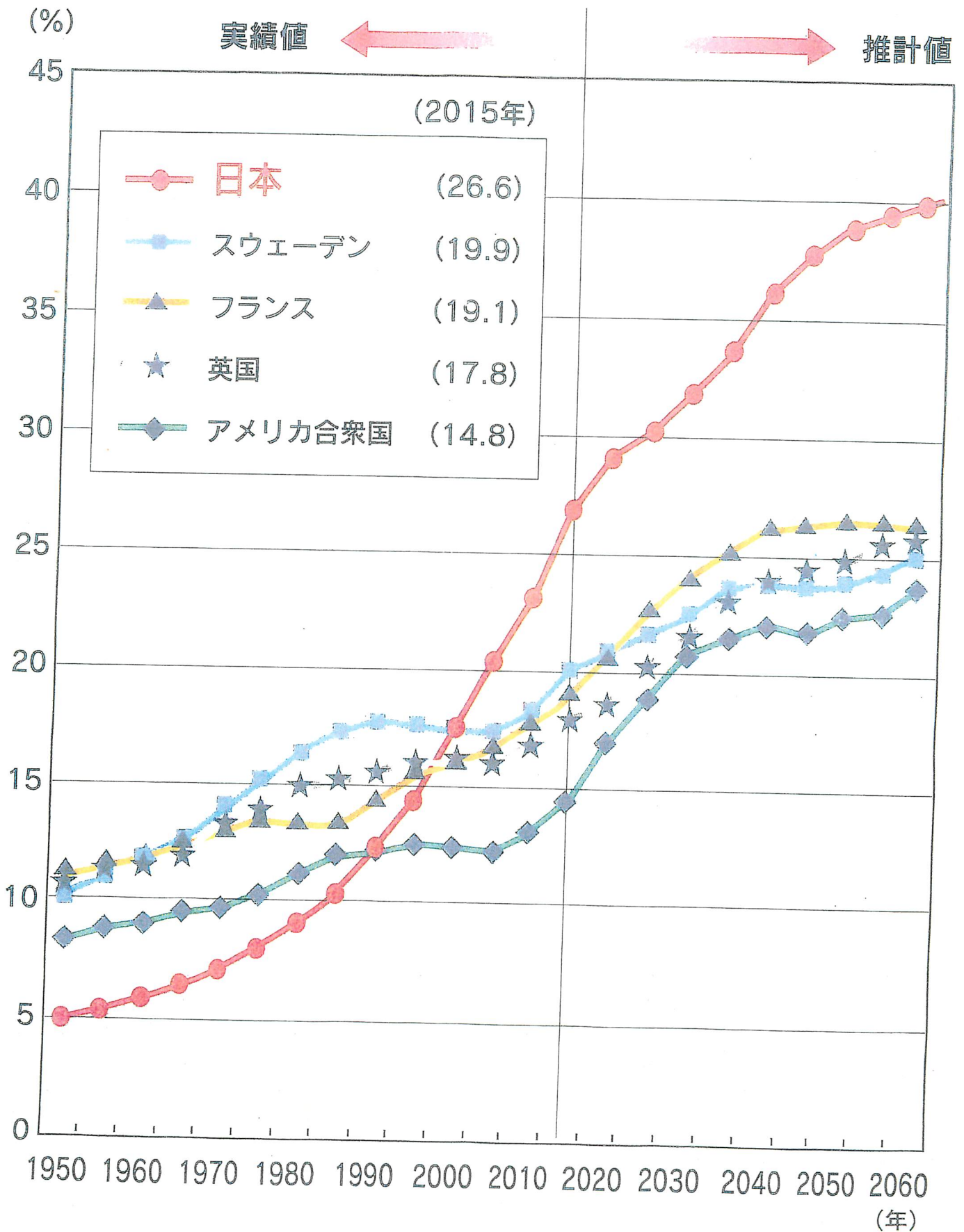
戦後、最低から一番になった日本

—平均寿命と平均所得の推移—

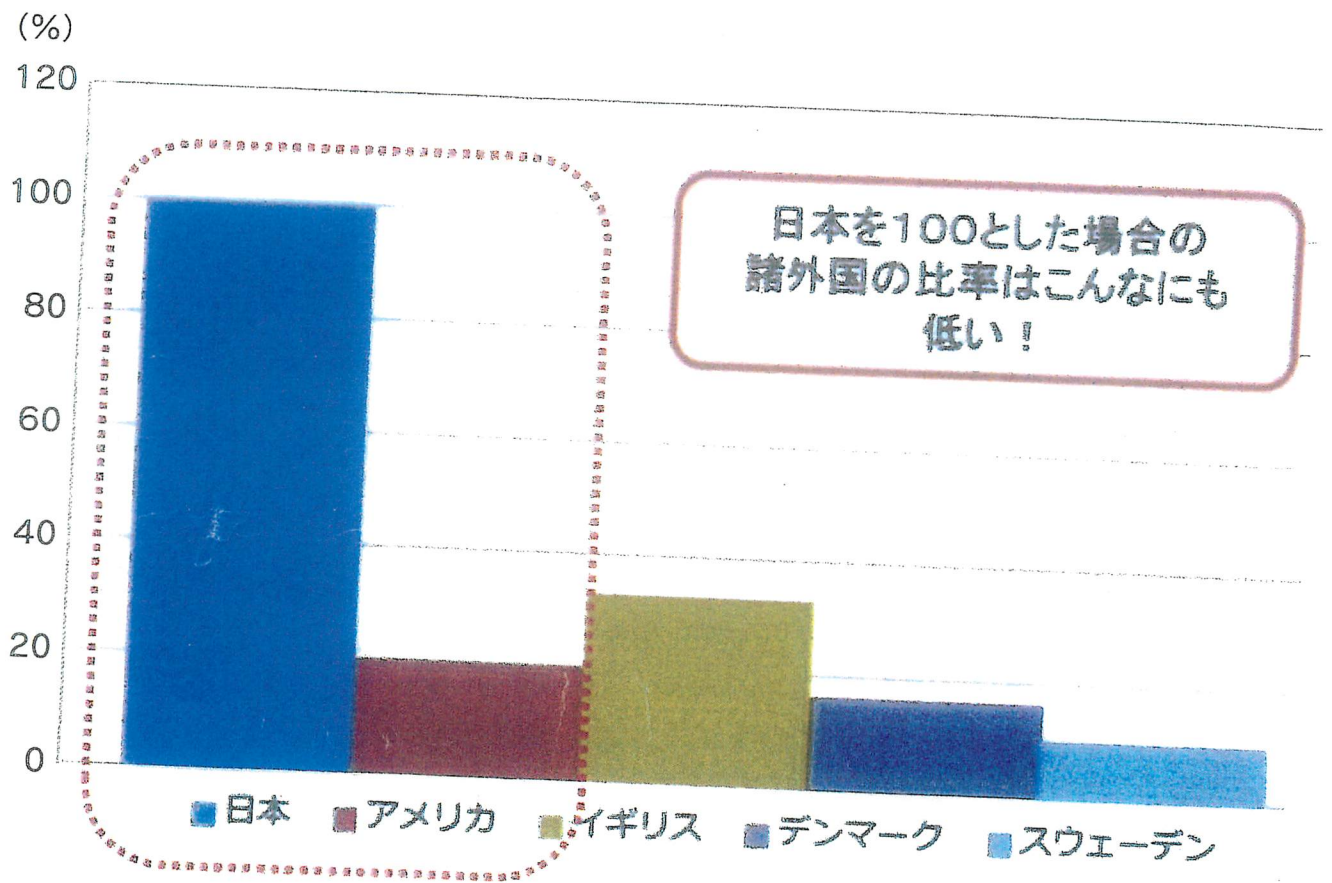


(注)平均寿命は2016年、1人当たりGDPと人口は17年のデータ

先進国の高齢化率の推移

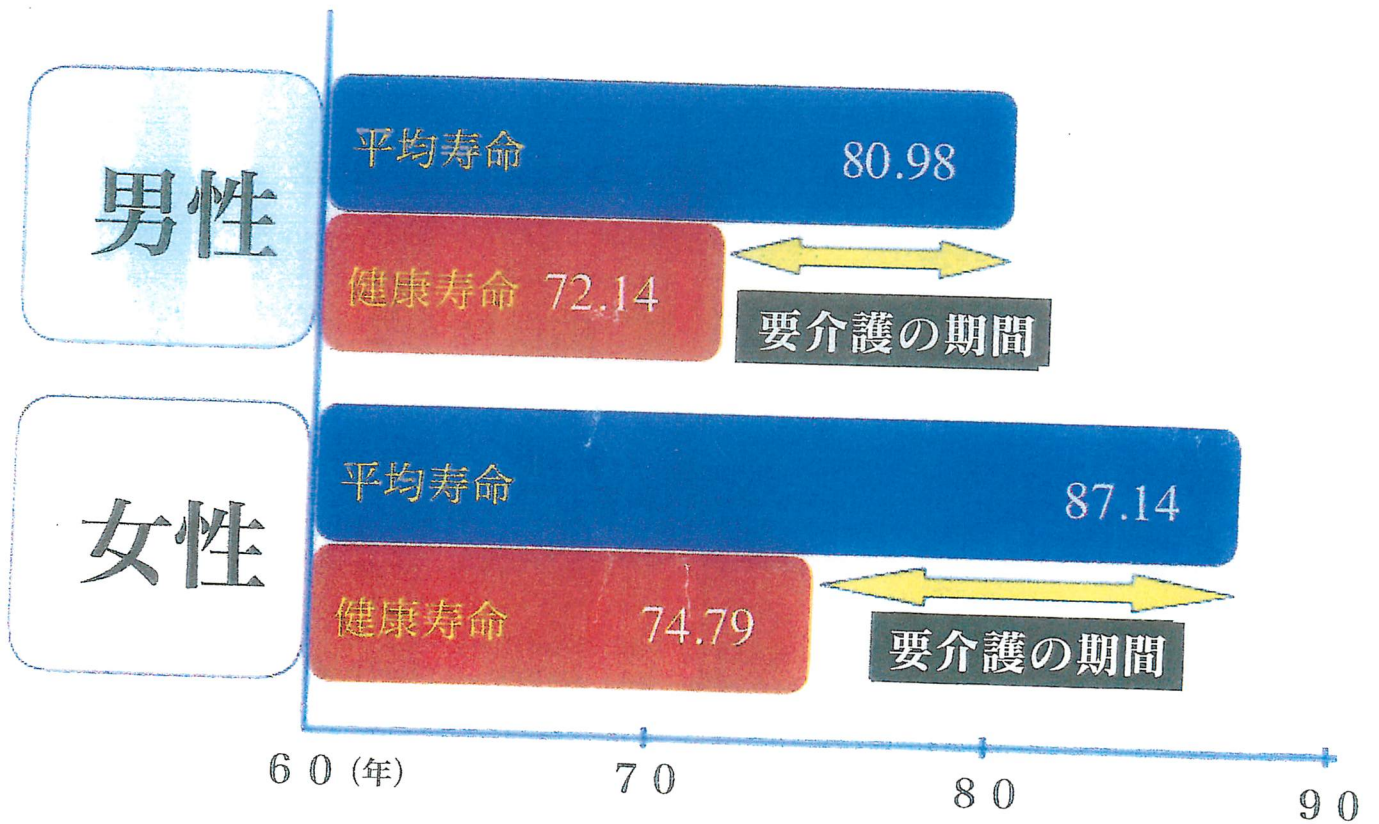


高齢者寝たきり率国際比較



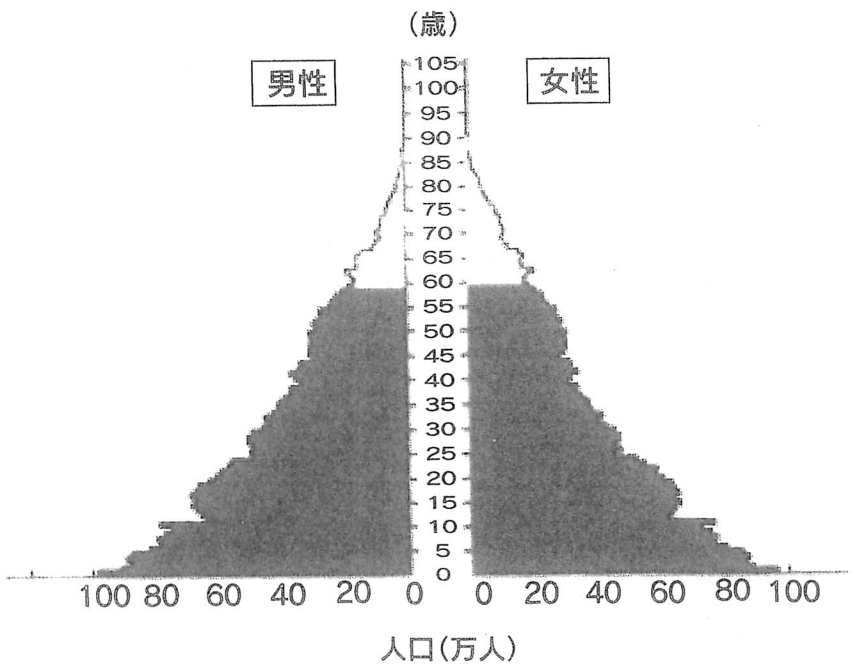
出典：寝たきりゼロを目指して一寝たきり老人の現状分析並びに諸外国との比較に関する研究
第2版
Core Ethics Vol.6 (2010)

日本人の平均寿命と健康寿命 (2016年)



日本の人口ピラミッドの変化図

1950年(昭和25年)
の人口構成の変化図



2035年
世界一超高齢化社会です

